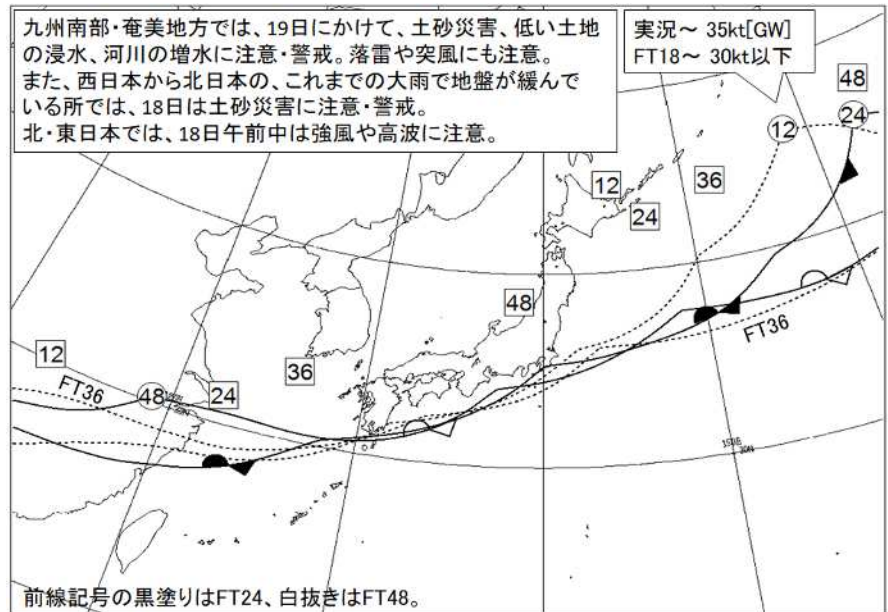


1. 実況上の着目点

- ① 日本付近の梅雨前線は東・西日本太平洋側に南下。前線上の低気圧は千島近海を東北東進。東・西日本の前線の活動は小康状態となっているが、華中を東進している 500hPa5760～5820m 付近のトラフの接近に伴い、東シナ海から南西諸島にかけて前線の活動が活発になってきており、1 時間に 50mm 以上の雨を解析、発雷も検知。
- ② 北・東日本を 500hPa5700m 付近のトラフが通過中。トラフの前面で降水が広がり、1 時間に 10～20mm 程度の雨を解析。



主要じょう乱解説図

- ③ ①の低気圧や前線と、日本のはるか東の高気圧との間で気圧の傾きが大きくなっており、北・東日本の太平洋側では南西の風がやや強く吹いて波が高い所がある。

2. 主要じょう乱の予想根拠と解説上の留意点

- ① 1 項①の梅雨前線は 19 日にかけて九州南部から本州の南岸付近に停滞する。18 日日中は 1 項①のトラフの接近、19 日は 500hPa5820m 付近の強風軸が顕在化し、大陸東岸でトラフが深まる影響で、東シナ海から九州南部・奄美地方付近で梅雨前線の活動が活発化。前線に向かって 850hPa θ e339K 以上の下層暖湿気が断続的に流入するため、九州南部・奄美地方では雷を伴って非常に激しい雨が降る所がある。19 日にかけて、土砂災害や河川の増水、低い土地の浸水に注意・警戒し、落雷や突風に注意。
- ② 2 項①のトラフは 18 日夜にかけて西日本から北日本へ進む。トラフの接近・通過のタイミングで大気の状態が不安定となって、前線の北側に降水が広がる見込み。西日本から北日本の、これまでの大雨で地盤の緩んでいる所では、土砂災害に注意・警戒。河川の増水、低い土地の浸水、落雷、突風にも注意。
- ③ 19 日は 500hPa5640～5700m 付近のトラフが北日本を通過。初期値が新しくなるにつれて次第に深まっており、北日本では対流雲の発達に注意。
- ④ 1 項①の低気圧や前線と高気圧との間で気圧の傾きが大きい状態が続くため、北・東日本では 18 日午前はやや強い風が吹き、波の高い所がある。強風や高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場は最新の GSM を基本。量予想や風は MSM や LFM も参考。前線の位置や降水の広がり・強さに初期値変わりがあり、不確実性がある。

4. 防災関連事項 [量的予報と根拠]

- ① 大雨ポテンシャル(06 時からの 24 時間) : 九州南部 150、奄美 120mm。2 項の短時間強雨に注意。
- ② 波浪(明日まで) : 北海道・関東・伊豆諸島 3m。

5. 全般気象情報発表の有無 発表予定なし。